
第 50 回日本臨床心理学会総会（東京大会）ご案内

暑中お見舞い申し上げます。

すでに今大会については、第 177 号のクリニカルサイコロジストにてお知らせしましたが、当日の日程は 2 頁のような内容で行います。

日本臨床心理学（以下臨心）は、50 年以上の学会活動をとおして、社会的弱者に関わる諸課題について、「障害児・者と共に生きる」「される側に学ぶ」「反差別」等を基盤に議論し、関わる側の実践内容を点検してきました。その中でも、「出生前診断」の課題は、「不幸な子どもの産まれない運動」問題に対して、1970 年代から 80 年代に大きく取り上げて反対運動を展開して以来、30 年が経過しました。

日本は、今年 1 月に「障害者権利条約」を批准しました。都道府県では「障害者差別禁止条例」等の制定が進み始めています。しかしその水面下では、「早期発見・早期治療」に関わる「生命」科学の研究に歯止めが掛からなくなりつつあります。ご承知の通り、2013 年 4 月より臨床研究に入った「新型出生前診断（以下「NIPT」）」が開始されました。臨心としては看過してはならない課題です。

そこで今全体会は、「NIPT」課題を中心とし、産婦人科医師の堀口貞夫さんより、「NIPT」に関する所見を含めた講演をいただき、その後にシンポジウムを企画・開催します。シンポジストには、堀口さんの他に、「日本ダウン症協会広島支部」の石黒敬子さん、「『ハイリスク』な女の声をとどける会」の二階堂祐子さんを迎えて、議論を深めたいと考えています。

臨心研修委員会は、この全体会に向け 7 月に、「なぜ、今『出生前診断』なのか？」をテーマとした第 1 回プレ研修会を開催しました。「優生思想を背景とする私たち自身の『人間の見方』が問われている」という問題提起がありました。9 月には、第二弾として「障害のある子らの入園からグループホームまで『共に育ち・生きる』をサポートして半世紀」という報告を踏まえて、障害児・者の「今」を考える研修会を行います。「NIPT」を検討する上で重要な内容です。

なお今大会は、一人約 1 時間枠の「個別発表」を設けています。これまで実践してきた援助・支援の内容等を点検する「場」として、また、現場のレポートや「臨心」に対する所感等を文書化する機会としてぜひとも活用ください。皆さんからの応募をお待ちしております。

（大会委員長 高島 眞澄）

第 50 回日本臨床心理学会総会（東京大会）

月 日：2014 年 11 月 15 日（土）

会 場：国立オリンピック記念青少年総合センター

<http://nyc.niye.go.jp/index.html>

東京都渋谷区代々木神園町 3-1

小田急線 参宮橋駅下車 徒歩約 7 分

参 加 費：会員/2,000 円、

非会員/3,000 円、

障害当事者・家族・学生等/1,000 円



大会日程：

時 間	内 容	
9：30～	受付	
10：00～ 12：00	個別発表	詳細は 4 頁参照
12：00～ 13：30	昼食・休憩	
13：30～ 14：30	基調講演	堀口貞夫さん（産婦人科医師）
14：30 ～ 17：00	シンポジウム	<p>シンポジスト：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・石黒敬子さん （日本ダウン症協会広島支部 「えんぜるふいっしゅ」役員） ・二階堂祐子さん （「ハイリスク」な女の声をとどける会休会中・発起人 明治学院大学大学院社会学研究科後期博士課程） ・堀口貞夫さん <p>司会：山本勝美（心理相談員協議会） 高島眞澄（社会福祉法人光風会）</p>
17：30～ 20：00	定期総会	<p>2014 年度日本臨床心理学会定期総会議案概要</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 中間総括（活動報告） 2. 2013 年度決算報告 3. 監査報告 4. 2014 年度予算案 5. 規約改正 6. その他

第50回日本臨床心理学会シンポジウム

第2回プレ研修会

「なぜ、今「出生前診断」なのか」

生涯をかけて実践してきた心理相談員古賀さんからの報告

～ 障害のある子らの、入園からグループホームまで

「共に育ち・生きる」をサポートして半世紀～

日 時：9月7日（日）：14 時～17 時

会 場：ダイニング「街なか」2階ホール

(<http://www.vi-machinaka.com/>)

(JR 埼京線十条駅北口下車、改札出て左へ徒歩 1 分)

Tel. 03-6454-3870

参加費：500 円

レポーター：古賀才子さん（「ぞうさんの部屋」の著者）

*参考文献：「大丈夫、みんな楽しく生きています！

一ことばの遅れ・知的障害・自閉症の子が大人になるまで
つきあって」（社会評論社・2013 年発行）

（当日会場で販売します）



古賀さんは 1969 年から 3 歳児健診に心理相談員として、発育の遅れや障害のある子とその親に半世紀間ひとすじに関わってこられました。その後、78 年に東京・立川、のちに杉並で自宅を改造して相談室「ぞうさんの部屋」を開設されました。以来、相談に駆けつける親子と誠心誠意、向き合ってこられました。

古賀さんの相談は以下の諸点で類例のない実践と言えます。

- 1) カウンセリングや心理相談の仕事は、ややもすると社会的視野の希薄な世界に陥りがちですが、古賀さんは、障害や遅れのある子が普通の保育集団や学校へ入るのを力強くサポートされてこられました。
- 2) 一人ひとりの子の興味や個性、可能性が発揮できるような、多様で柔軟なケアをされてこられました。それ故、その子が喜ぶお遊び、お絵描き、学習等をじょうずに進め、ユニークなおもちゃを創るなどの苦心を重ねられてきました。
- 3) 相談は入園に始まり、普通学級入学、高校ほかへの進学、就労へと進み、さらに親から独立し、グループホームで居住する段階までの支援を続けています。

上記の参考文献には人生の各段階で必要な情報として＜知的障害者ガイドヘルプ事業＞＜義務教育とは＞＜公的介助員制度＞＜結婚相談所＞＜障害者就業・生活支援センター＞等をコンパクトに解説しています。

本研修会は心理相談員協議会が主催し、日本臨床心理学会が協賛します。一頁でご案内したように、第 50 回日本臨床心理学会総会（東京大会）のシンポジウム「なぜ、今「出生前診断なのか？」と、本研修会のテーマである「障害のある子の生涯がどう保障されてゆくの

か？」が大きく関係していると考え協賛を致します。
なお、本研修会の資料はホームページの会員のページに掲示します。

大会個別発表の募集について

11月15日の第50回日本臨床心理学会総会当日10:00～12:00の間、2か所の会場に分け計4名の個別発表を予定しております。発表を希望される方は、下記の応募用紙に必要事項を記入の上、9月30日までに学会事務局に郵送・ファックス・メールのいずれかの方法で申込んでください。応募用紙はホームページからダウンロードできます。

なお、発表時間は一人1時間（発表・質疑応答含む）を予定していますが、応募者が多い場合は、発表時間を一人40分に短縮させていただきます。

当日の配布資料は各自で用意して下さい。

発表者氏名	
所属	
連絡先	
発表題名	
パワーポイント 使用の有無	<div>使用する 使用しない</div> <p>パワーポイント使用の場合は、パソコンは各自持参してください</p>
発表内容 （大会抄録集に そのまま、掲載 します。）	